

1 街頭犯罪

平成15年の主な街頭犯罪の各手口（注）の認知件数を見ると、ひったくり、オートバイ盗、自転車盗、車上ねらい、部品盗、自動販売機荒し、街頭における傷害、恐喝が前年に比べ減少しており、路上強盗、自動車盗、街頭における暴行及び強制わいせつ、屋外強姦が前年に比べ増加している。これらの街頭犯罪全体で見ると、認知件数の合計は147万7,421件で、全刑法犯の53.0%を占め、前年に比べ14万9,451件（9.2%）減少している。

また、街頭犯罪の特徴としては、検挙人員に占める少年の割合が高いことが挙げられる。

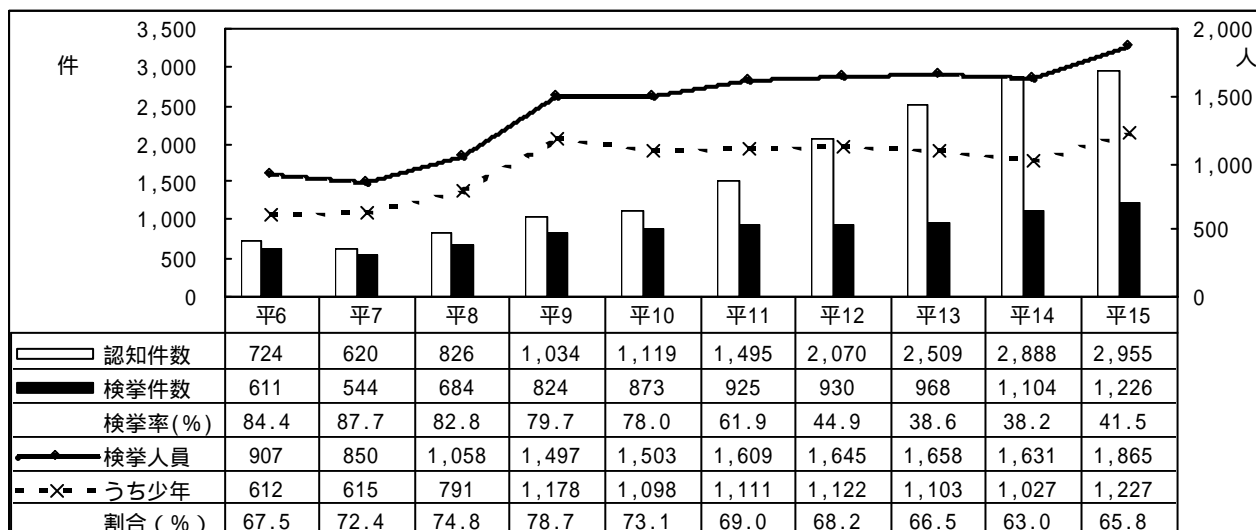
注：「街頭犯罪」は、強盗については路上強盗、強姦については屋外強姦、窃盗については自動車盗、オートバイ盗、自転車盗、ひったくり、部品盗、車上ねらい、自動販売機荒しの各手口とし、粗暴犯及び強制わいせつについては、その発生場所が道路上、駐車（輪）場、都市公園及び空き地（ただし、平成7年以前は、道路上、駐車（輪）場及び広場）であるものとした。

(1) 路上強盗

路上強盗の認知件数は、平成8年以降増加しており、特に平成11年から平成14年にかけては年平均約440件のペースで急増している。平成15年の認知件数は2,955件で、前年に比べ67件（2.3%）増加している。また、検挙件数、検挙人員も、ここ10年、ほぼ増加傾向にあり、平成15年の検挙件数は1,226件、検挙人員は1,865人で、前年に比べ、検挙件数が122件（11.1%）、検挙人員が234人（14.3%）それぞれ増加している（図表2-1-(1)-1）。

平成15年に認知した事件について見ると、発生場所は道路上、発生時間帯は午後10時から午前2時まで、被害者は20歳代の男性が最も多い（図表2-1-(1)-2、3、4）。また、検挙事件について見ると、成人では単独犯が多いが、少年では4人組以上の共犯が多い。さらに、逃走時の交通手段は自動車を使用したものが最も多い（図表2-1-(1)-5、6）。

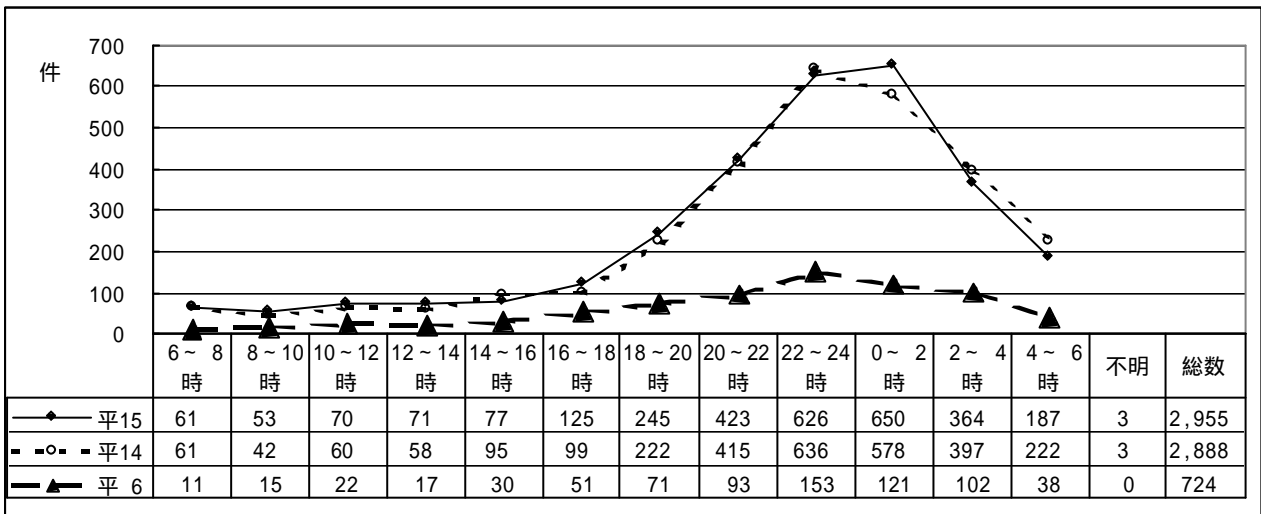
図表2-1-(1)-1 路上強盗の認知・検挙状況の推移



図表 2 - 1 - (1) - 2 路上強盗の発生場所別認知件数

	平15		平14		増減	
	認知件数	割合 (%)	認知件数	割合 (%)	件数	率 (%)
総数	2,955	100.0	2,888	100.0	67	2.3
街頭	2,835	95.9	2,786	96.5	49	1.8
道路上	2,468	83.5	2,488	86.1	-20	-0.8
駐車(輪)場	283	9.6	209	7.2	74	35.4
都市公園	73	2.5	71	2.5	2	2.8
空き地	11	0.4	18	0.6	-7	-38.9
その他	120	4.1	102	3.5	18	17.6

図表 2 - 1 - (1) - 3 路上強盗の発生時間帯別認知件数の状況



図表 2 - 1 - (1) - 4 路上強盗の被害者の年齢・性別認知件数の状況 (平成15年)

	総数	未成年	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
認知件数	2,950	603	1,023	437	281	292	314
割合 (%)	100.0	20.4	34.7	14.8	9.5	9.9	10.6
男性	1,892	473	632	284	199	185	119
割合 (%)	64.1	16.0	21.4	9.6	6.7	6.3	4.0
女性	1,058	130	391	153	82	107	195
割合 (%)	35.9	4.4	13.3	5.2	2.8	3.6	6.6

注：被害者が団体・法人のものを除く。

図表 2 - 1 - (1) - 5 路上強盗の共犯形態別検挙件数 (平成15年)

	総数	単独犯	共犯	共犯		
				2人組	3人組	4人組以上
総数	1,214	434	780	286	222	272
成人事件	576	358	218	106	58	54
少年事件	523	76	447	145	133	169
成人・少年共犯	115		115	35	31	49

注：解決事件を除く。

図表 2 - 1 - (1) - 6 路上強盗の検挙被疑者の逃走時の交通手段別検挙件数の推移

	平11	平12	平13	平14	平15
総数	921	925	955	1,097	1,214
自動車	359	333	347	400	413
オートバイ	119	165	187	243	182
自転車	57	80	72	97	73
その他	141	105	98	96	106
該当なし	245	242	251	261	322

注：解決事件を除く。

路上強盗、ひったくりに対する主な施策（現在実施中の施策である。以下同じ。）

《施策 1》犯罪情報、防犯情報の発信による自主防犯行動の促進

地域住民や被害に遭いやすい対象に対し、犯罪発生状況や具体的な防犯対策に関する情報を発信することにより、自主防犯意識の高揚を図り、自主防犯行動を促進する。

《施策 2》街頭パトロール活動の強化

制服警察官等による特別警戒隊等を多発地域・時間帯に重点投入し、パトロール、検問等の街頭活動を強化する。また、地域住民等による防犯パトロール等への支援、緊急地域雇用創出特別事業による地域安全パトロールの活用等により、パトロール活動を強化する。

《施策 3》非行少年対策の強化

路上強盗、ひったくりの検挙人員の約 7 割を少年が占めていることから、暴走族等の非行集団に対する取締りを強化する。

《施策 4》初動捜査体制の強化

事案発生時における発生地周辺の検索活動等を迅速かつ濃密に実施するため、機動捜査隊等の本部執行隊や周辺警察署の警察官を一時的に大量投入する。

《施策 5》特別検挙隊等の編成による検挙活動の強化

警察本部や警察署において、事件検挙のための特別の捜査体制を編成し、継続的に捜査を推進する。

《施策 6》犯罪発生状況の分析による検挙活動の強化

犯罪発生状況を分析した上で、犯罪多発地域、時間帯に私服警察官等を投入し、継続的な職務質問やよう撃捜査を推進する。

《施策 7》機動力を活用した検挙活動の推進

二輪車等を利用したひったくり等に対処するため、二輪車やヘリコプター等を効果的に活用した検挙活動を推進する。

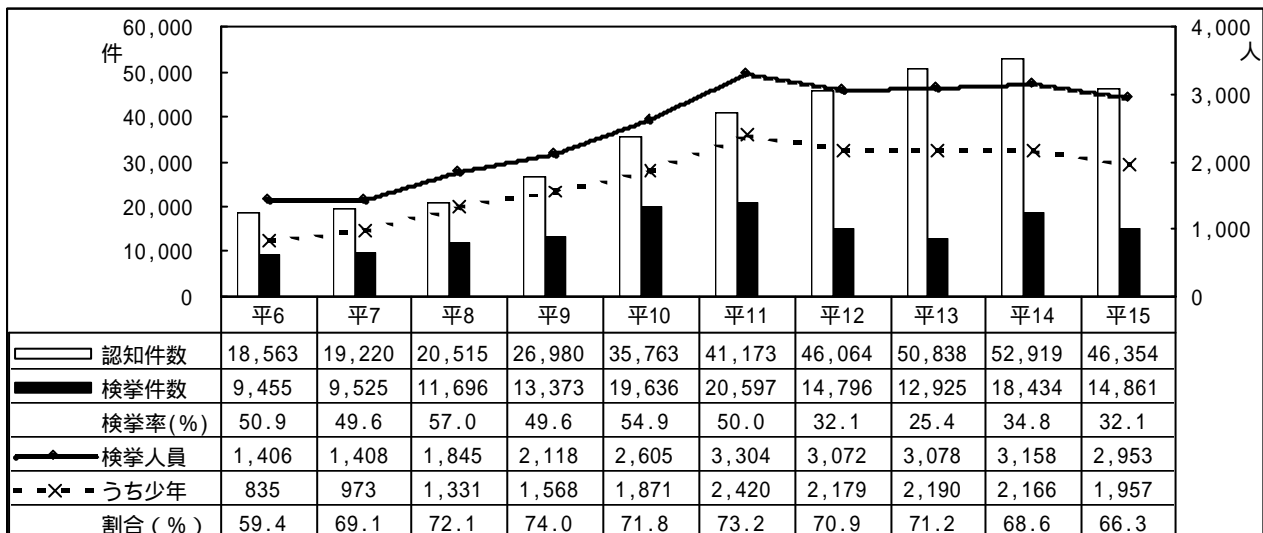
(2) ひったくり

ひったくりの認知件数は、ここ10年間一貫して増加してきたが、平成15年の認知件数は4万6,354件で、前年に比べ6,565件(12.4%)減少している。

検挙件数は1万4,861件、検挙人員は2,953人で、前年に比べ、検挙件数が3,573件(19.4%)、検挙人員が205人(6.5%)それぞれ減少している。検挙人員の約7割を少年が占めている(図表2-1-(2)-1)。

平成15年に認知した事件について見ると、発生場所は道路上、発生時間帯は午後6時から午後10時まで、被害者は60歳以上の女性が最も多い(図表2-1-(2)-2、3、4)。また、検挙事件について見ると、成人では単独犯が多いが、少年では2人組の共犯が多く、逃走時の交通手段はオートバイを使用するものが最も多い(図表2-1-(2)-5、6)。

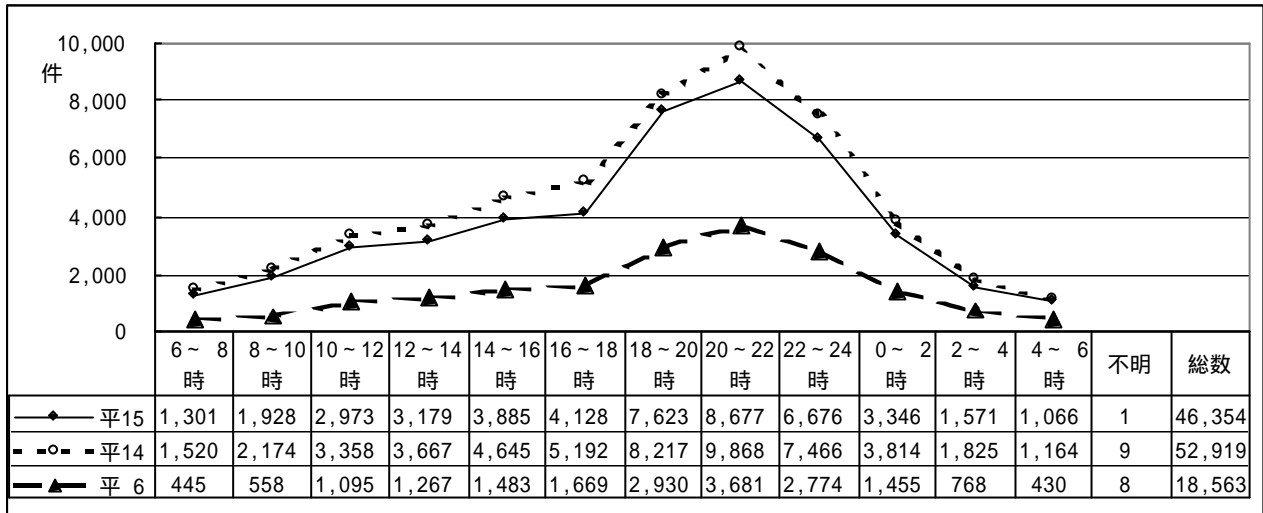
図表2-1-(2)-1 ひったくりの認知・検挙状況の推移



図表2-1-(2)-2 ひったくりの発生場所別認知件数

	平15		平14		増減	
	認知件数	割合(%)	認知件数	割合(%)	件数	率(%)
総数	46,354	100.0	52,919	100.0	-6,565	-12.4
街頭	45,498	98.2	51,993	98.3	-6,495	-12.5
道路上	45,004	97.1	51,496	97.3	-6,492	-12.6
駐車(輪)場	427	0.9	422	0.8	5	1.2
都市公園	63	0.1	67	0.1	-4	-6.0
空き地	4	0.0	8	0.0	-4	-50.0
その他	856	1.8	926	1.7	-70	-7.6

図表 2 - 1 - (2) - 3 ひったくりの発生時間帯別認知件数の状況



図表 2 - 1 - (2) - 4 ひったくりの被害者の年齢・性別認知件数の状況（平成15年）

	総数	未成年	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
認知件数	46,334	3,179	10,819	5,194	4,748	8,267	14,127
割合(%)	100.0	6.9	23.4	11.2	10.2	17.8	30.5
男性	2,825	256	455	347	318	538	911
割合(%)	6.1	0.6	1.0	0.7	0.7	1.2	2.0
女性	43,509	2,923	10,364	4,847	4,430	7,729	13,216
割合(%)	93.9	6.3	22.4	10.5	9.6	16.7	28.5

注：被害者が団体・法人のものを除く。

図表 2 - 1 - (2) - 5 ひったくりの共犯形態別検挙件数（平成15年）

	総数	単独犯	共犯			
			2人組	3人組	4人組以上	
総数	14,683	9,439	5,244	4,350	565	329
成人事件	8,556	7,352	1,204	1,033	133	38
少年事件	5,460	2,087	3,373	2,961	260	152
成人・少年共犯	667		667	356	172	139

注：解決事件を除く。

図表 2 - 1 - (2) - 6 ひったくりの検挙被疑者の逃走時の交通手段別検挙件数の推移

	平11	平12	平13	平14	平15
総数(件)	20,487	14,722	12,784	18,310	14,683
自動車	1,169	830	893	1,061	1,476
オートバイ	15,201	11,203	9,581	14,387	10,418
自転車	2,596	1,707	1,493	1,881	1,778
その他	478	238	263	239	360
該当なし	1,043	744	554	742	651

注：解決事件を除く。

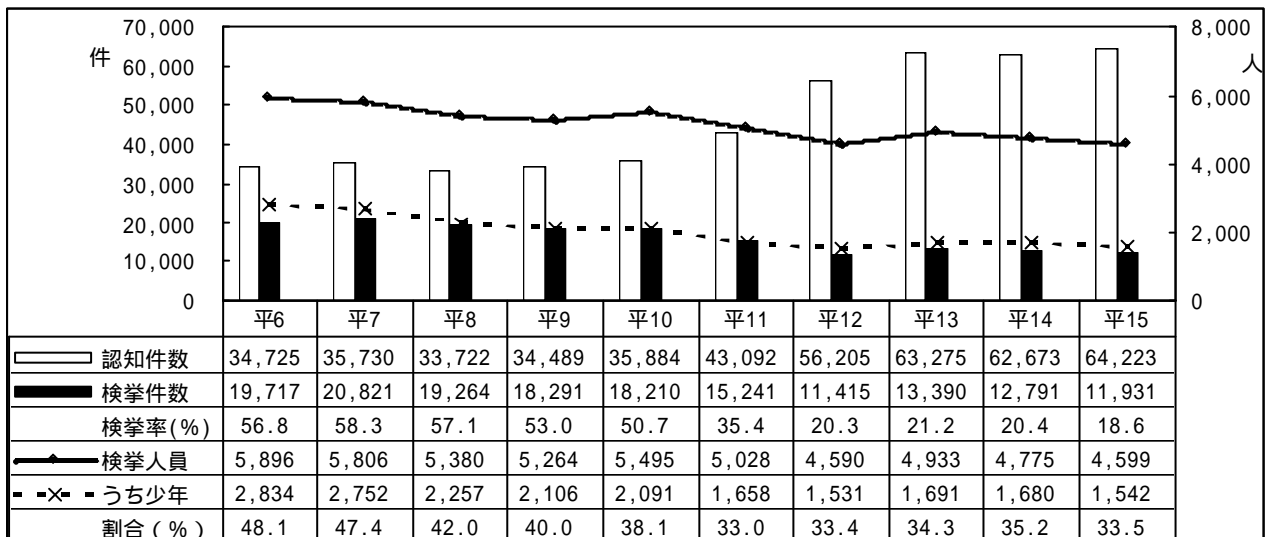
ひったくりに対する主な施策 ~ 5ページ参照

(3) 自動車盗

平成11年から急増している自動車盗の認知件数は、平成14年には減少に転じたが、平成15年は6万4,223件で、前年に比べ1,550件(2.5%)増加している。また、検挙件数、検挙人員は減少傾向にあり、平成15年の検挙件数は1万1,931件、検挙人員は4,599人で、前年に比べ、検挙件数が860件(6.7%)、検挙人員が176人(3.7%)それぞれ減少している(図表2-1-(3)-1)。

平成15年に認知した事件について見ると、発生場所は駐車(輪)場、発生時間帯は午前2時から午前4時までが最も多く、10年間での増加もこの時間帯の増加が大き(図表2-1-(3)-2、3)。また、自動車盗の認知件数が多い10の都道府県で、全国の自動車盗の認知件数の77.4%を占めている(図表2-1-(3)-4)。

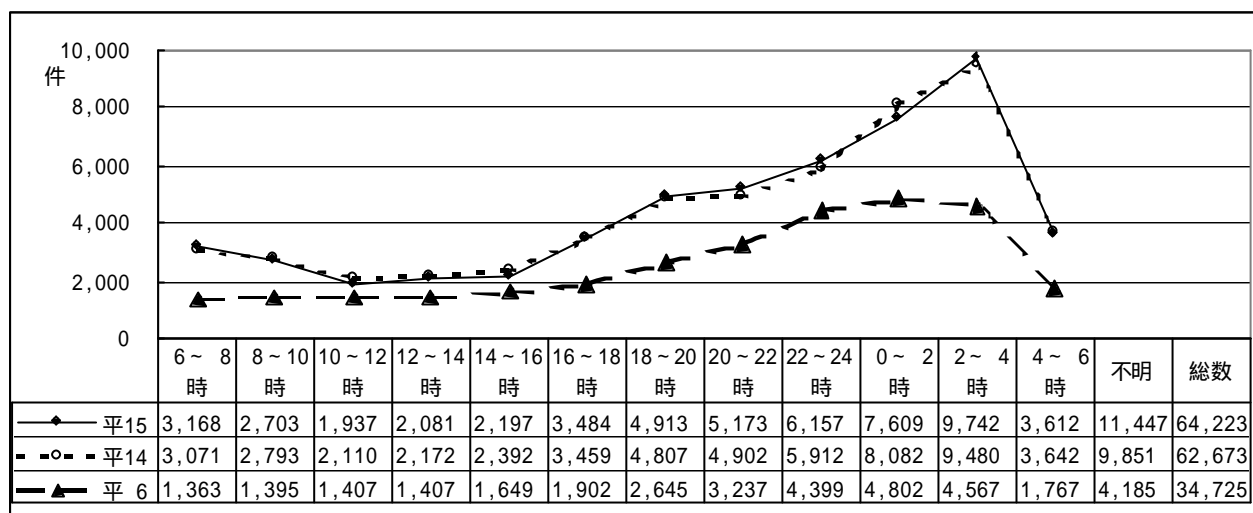
図表2-1-(3)-1 自動車盗の認知・検挙状況の推移



図表2-1-(3)-2 自動車盗の発生場所別認知件数

	平15		平14		増減	
	認知件数	割合(%)	認知件数	割合(%)	件数	率(%)
総数	64,223	100.0	62,673	100.0	1,550	2.5
街頭	51,107	79.6	49,693	79.3	1,414	2.8
道路上	9,110	14.2	9,617	15.3	-507	-5.3
駐車(輪)場	40,499	63.1	38,380	61.2	2,119	5.5
都市公園	25	0.0	31	0.0	-6	-19.4
空き地	1,473	2.3	1,665	2.7	-192	-11.5
その他	13,116	20.4	12,980	20.7	136	1.0

図表 2 - 1 - (3) - 3 自動車盗の発生時間帯別認知件数の状況



図表 2 - 1 - (3) - 4 自動車盗の認知件数が多い都道府県

	平15		平14		増減	
	認知件数	割合(%)	認知件数	割合(%)	件数	率(%)
全国合計	64,223	100.0	62,673	100.0	1,550	2.5
1 愛知	9,865	15.4	7,515	12.0	2,350	31.3
2 大阪	9,635	15.0	10,558	16.8	-923	-8.7
3 千葉	5,522	8.6	5,275	8.4	247	4.7
4 神奈川	5,329	8.3	4,359	7.0	970	22.3
5 埼玉	4,867	7.6	4,381	7.0	486	11.1
6 福岡	4,081	6.4	5,182	8.3	-1,101	-21.2
7 兵庫	3,415	5.3	3,969	6.3	-554	-14.0
8 茨城	2,489	3.9	2,908	4.6	-419	-14.4
9 東京	2,331	3.6	2,333	3.7	-2	-0.1
10 北海道	2,197	3.4	2,296	3.7	-99	-4.3
10都道府県合計	49,731	77.4	48,776	77.8	955	2.0

エンジンキーを抜いた（運転席近くにキーを放置していない）状態で盗まれているのは、自動車盗の71.1%を占めている。また、被害額（注）300万円以上の自動車盗の認知件数は7,373件で、前年に比べ1,559件(17.5%)減少している（図表2-1-(3)-5、6）。

注：ここでいう「被害額」とは、盗難車に積載等されていたすべてのものを含めた被害総額をいう。なお、その金額は時価である。

図表2-1-(3)-5 自動車盗のキーの有無別認知件数の推移

区分 \ 年次	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15
認知件数(件)	34,725	35,730	33,722	34,489	35,884	43,092	56,205	63,275	62,673	64,223
キーあり	21,276	20,807	18,981	18,052	18,752	19,234	21,195	21,743	20,204	18,568
キーなし	13,449	14,923	14,741	16,437	17,132	23,858	35,010	41,532	42,469	45,655
キーなしの比率(%)	38.7	41.8	43.7	47.7	47.7	55.4	62.3	65.6	67.8	71.1

図表2-1-(3)-6 自動車盗の被害額別認知件数の推移

被害額 \ 年次	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15
認知件数	34,725	35,730	33,722	34,489	35,884	43,092	56,205	63,275	62,673	64,223
200万円未満	28,484	29,012	25,673	25,317	25,509	27,671	34,284	40,405	42,089	44,538
200万円以上300万円未満	2,815	2,986	3,355	3,697	4,164	5,657	8,311	9,563	9,693	9,736
300万円以上	2,987	3,237	4,254	4,990	5,757	9,107	12,447	11,499	8,932	7,373
被害額の認定が困難なものなど	439	495	440	485	454	657	1,163	1,808	1,959	2,576
300万円以上の比率(%)	8.6	9.1	12.6	14.5	16.0	21.1	22.1	18.2	14.3	11.5

平成15年の被害自動車の還付数は2万36件で、前年に比べ614件(3.2%)増加している。また、自動車盗の認知件数に占める還付数の比率は31.2%で、前年に比べ0.2ポイント上昇している（図表2-1-(3)-7）。

図表2-1-(3)-7 被害自動車の還付数・還付率の推移

区分 \ 年次	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15
認知件数(件)	35,648	35,730	33,722	34,489	35,884	43,092	56,205	63,275	62,673	64,223
還付数(件)	-	-	18,244	17,920	17,754	16,512	16,914	19,579	19,422	20,036
還付率(%)	-	-	54.1	51.9	49.5	38.3	30.1	30.9	31.0	31.2

注1：還付に関する統計は、平成8年以降。

注2：還付率は、還付年の認知件数を基に算出した。

自動車盗に対する主な施策

《施策1》イモビライザー等の普及促進

関係機関・団体等と連携し、イモビライザー等の普及を促進する。

《施策2》駐車場対策の推進

駐車場の設置・管理者等に対し、外周柵の設置、照明設備の設置等の防犯対策を講じるよう働き掛ける。

《施策3》街頭パトロール活動の強化

制服警察官等による特別警戒隊等を多発地域・時間帯に重点投入し、パトロール、検問等の街頭活動を強化する。また、地域住民等による防犯パトロール等への支援、緊急地域雇用創出特別事業による地域安全パトロールの活用等により、パトロール活動を強化する。

《施策4》税関、入管、海保等関係機関との連携強化

盗難車両の不正輸出を防止するため、税関、入管、海保等関係機関との連携強化を図り、水際での検挙活動を推進する。

(4) オートバイ盗

オートバイ盗（注）の認知件数は、平成13年まで24万件前後で推移していたが、平成14年には20万件弱にまで減少した。平成15年の認知件数は15万4,979件で、前年に比べ4万3,663件（22.0%）減少している。

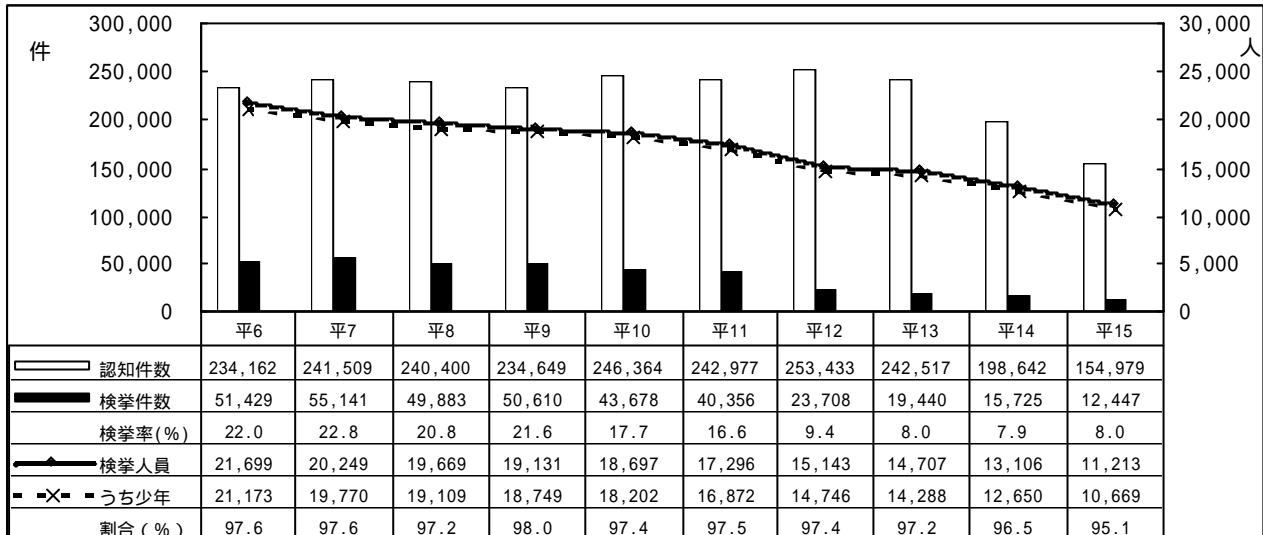
また、検挙件数は1万2,447件、検挙人員は1万1,213人で、それぞれ3,278件（20.8%）、1,893人（14.4%）減少している。オートバイ盗では、検挙人員に占める少年の割合が特に高く、平成15年では95.1%となっている（図表2-1-(4)-1）。

平成15年に認知した事件について見ると、発生場所は駐車（輪）場が最も多く、発生時間帯は平成6年では午後10時から午前0時までが最も多かったのが、この時間帯の発生件数が大幅に減少し、平成15年では午前0時から午前2時までが最も多くなっている（図表2-1-(4)-2、3）。

また、エンジンキーを抜いた（オートバイの近くにキーを放置していない）状態で盗まれているのは、オートバイ盗の78.1%を占めている（図表2-1-(4)-4）。

注：オートバイ盗とは、自動二輪車及び原動機付自転車を対象とする窃盗事件をいう。

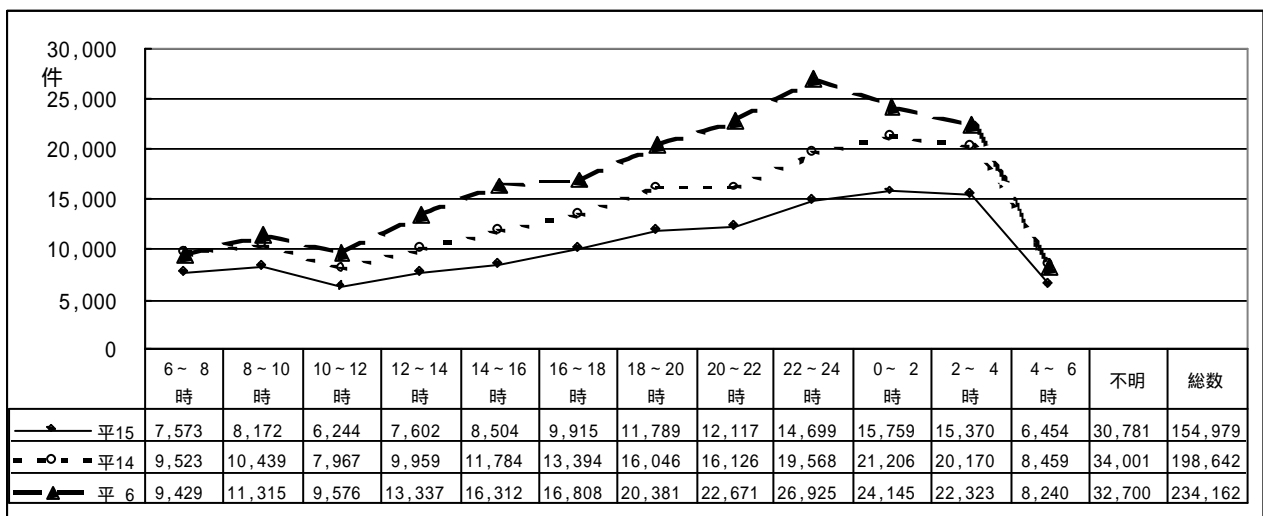
図表 2 - 1 - (4) - 1 オートバイ盗の認知・検挙状況の推移



図表 2 - 1 - (4) - 2 オートバイ盗の発生場所別認知件数

	平15		平14		増減	
	認知件数	割合(%)	認知件数	割合(%)	件数	率(%)
総数	154,979	100.0	198,642	100.0	-43,663	-22.0
街頭	109,229	70.5	138,459	69.7	-29,230	-21.1
道路上	34,756	22.4	42,935	21.6	-8,179	-19.0
駐車(輪)場	73,021	47.1	93,553	47.1	-20,532	-21.9
都市公園	267	0.2	349	0.2	-82	-23.5
空き地	1,185	0.8	1,622	0.8	-437	-26.9
その他	45,750	29.5	60,183	30.3	-14,433	-24.0

図表 2 - 1 - (4) - 3 オートバイ盗の発生時間帯別認知件数の状況



図表 2 - 1 - (4) - 4 オートバイ盗のキーの有無別認知件数の推移

年次	平 6	平 7	平 8	平 9	平10	平11	平12	平13	平14	平15
区分										
認知件数(件)	234,162	241,509	240,400	234,649	246,364	242,977	253,433	242,517	198,642	154,979
キーあり	50,348	51,643	51,680	53,379	55,019	53,941	54,254	50,346	43,039	33,969
キーなし	183,814	189,866	188,720	181,270	191,345	189,036	199,179	192,171	155,603	121,010
キーなしの比率(%)	78.5	78.6	78.5	77.3	77.7	77.8	78.6	79.2	78.3	78.1

オートバイ盗、自転車盗、車上ねらい、部品盗に対する主な施策

《施策 1》 駐車（輪）場における防犯対策の推進

駐車（輪）場の設置・管理者等に対し、照明設備の設置、監視員の配置等の防犯対策を講じるよう働き掛ける。

《施策 2》 犯罪情報、防犯情報等の発信による自主防犯行動の促進

罪種・手口ごとの発生状況や具体的な防犯対策に関する情報を発信することにより、自主防犯意識の高揚を図り、自主防犯行動を促進する。

《施策 3》 街頭パトロール活動の強化

制服警察官等による特別警戒隊等を多発地域・時間帯に重点投入し、パトロール、検問等の街頭活動を強化する。また、地域住民等による防犯パトロール等への支援、緊急地域雇用創出特別事業による地域安全パトロールの活用等により、駐車（輪）場を中心とするパトロール活動を強化する。

《施策 4》 グッドライダー防犯登録制度及び自転車防犯登録制度の普及促進

関係機関・団体等との連携を強化し、グッドライダー防犯登録制度及び自転車防犯登録制度の普及促進を図る。

《施策 5》 非行少年対策の推進

オートバイ盗、自転車盗等の検挙人員に占める少年の割合が高いことから、暴走族等の非行集団による違法行為の検挙活動を強化する。

《施策 6》 盗品捜査の徹底

処分先の捜査を徹底し、被害品の発見に努めることにより、被疑者の検挙につなげる。

《施策 7》 特別検挙隊等の編成による検挙活動の強化

犯罪発生実態を分析した上で、犯罪多発地域・時間帯における積極的な職務質問、よう撃捜査を推進する。

(5) 自転車盗

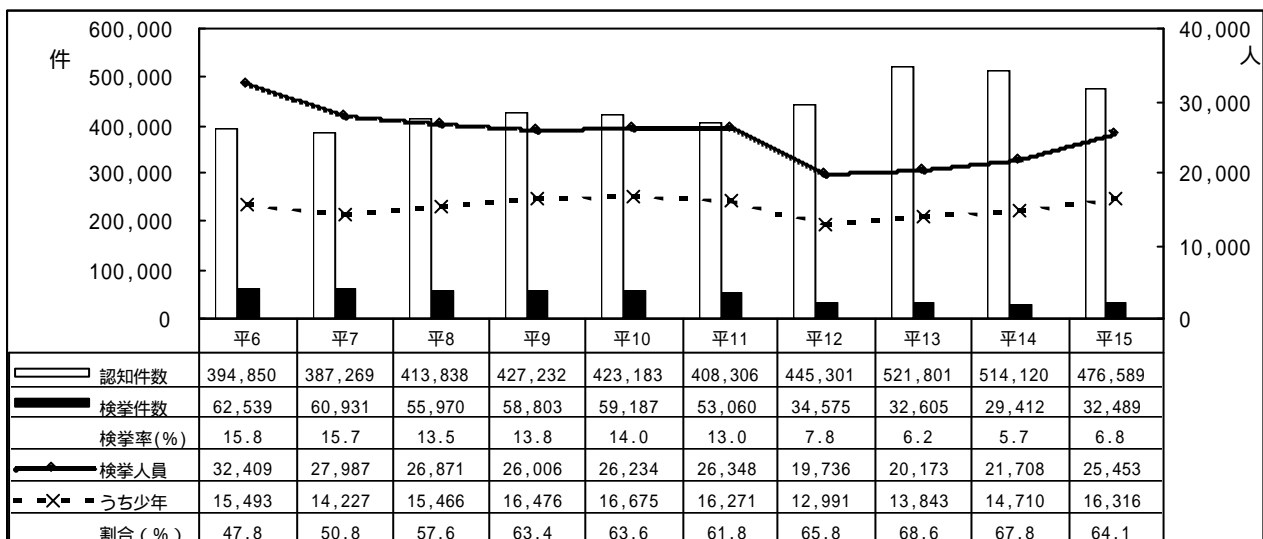
平成13年まで増加傾向にあった自転車盗の認知件数は、平成14年に減少に転じた。平成15年の認知件数は47万6,589件で、前年に比べ3万7,531件(7.3%)減少している。

また、平成14年まで減少傾向にあった検挙件数は、平成15年は3万2,489件で、前年に比べ3,077件(10.5%)増加している。検挙人員は13年から増加しており、平成15年は2万5,453人で、前年に比べ3,745人(17.3%)増加している(図表2-1-(5)-1)。

平成15年に認知した事件について見ると、発生場所は駐車(輪)場、発生時間帯は午後4時から午後6時までが最も多い(図表2-1-(5)-2)。

また、施錠をした状態で盗まれているのは、自転車盗の58.8%を占めている(図表2-1-(5)-3)。

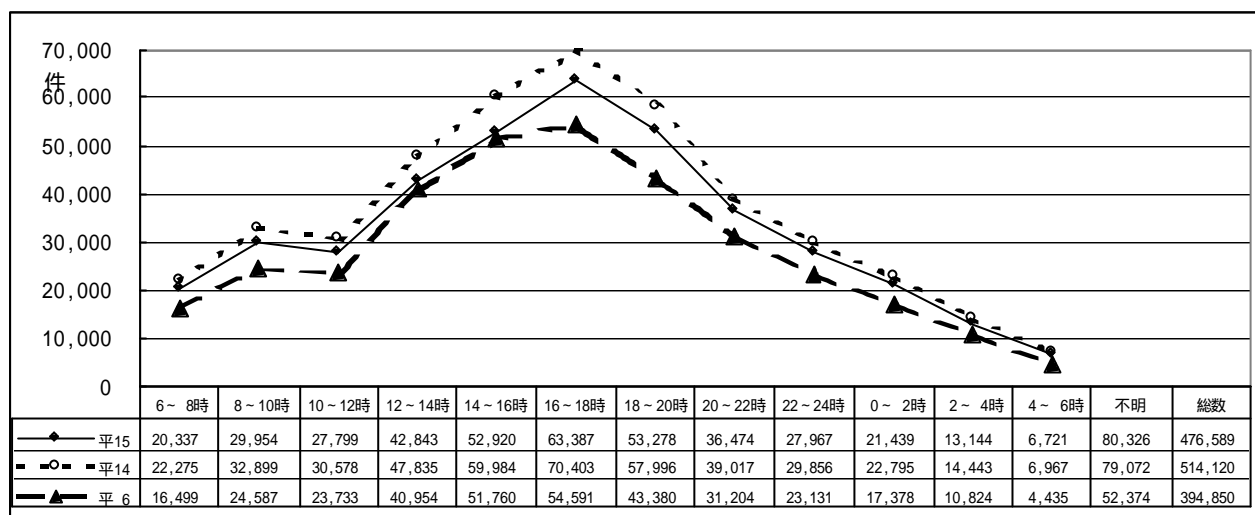
図表2-1-(5)-1 自転車盗の認知・検挙状況の推移



図表2-1-(5)-2 自転車盗の発生場所別認知件数

	平15		平14		増減	
	認知件数	割合(%)	認知件数	割合(%)	件数	率(%)
総数	476,589	100.0	514,120	100.0	-37,531	-7.3
街頭	362,974	76.2	387,794	75.4	-24,820	-6.4
道路上	110,362	23.2	118,672	23.1	-8,310	-7.0
駐車(輪)場	247,855	52.0	263,792	51.3	-15,937	-6.0
都市公園	2,090	0.4	2,147	0.4	-57	-2.7
空き地	2,667	0.6	3,183	0.6	-516	-16.2
その他	113,615	23.8	126,326	24.6	-12,711	-10.1

図表 2 - 1 - (5) - 3 自転車盗の発生時間帯別認知件数の状況



図表 2 - 1 - (5) - 4 自転車盗の施錠の有無別認知件数の推移

区分	年次	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15
認知件数(件)		394,850	387,269	413,838	427,232	423,183	408,306	445,301	521,801	514,120	476,589
施錠あり		253,094	237,765	242,635	245,268	238,717	233,778	258,421	313,920	311,787	280,444
施錠なし		141,756	149,504	171,203	181,964	184,466	174,528	186,880	207,881	202,333	196,145
施錠ありの比率(%)		64.1	61.4	58.6	57.4	56.4	57.3	58.0	60.1	60.6	58.8

自転車盗に対する主な施策 ～ 13ページ参照

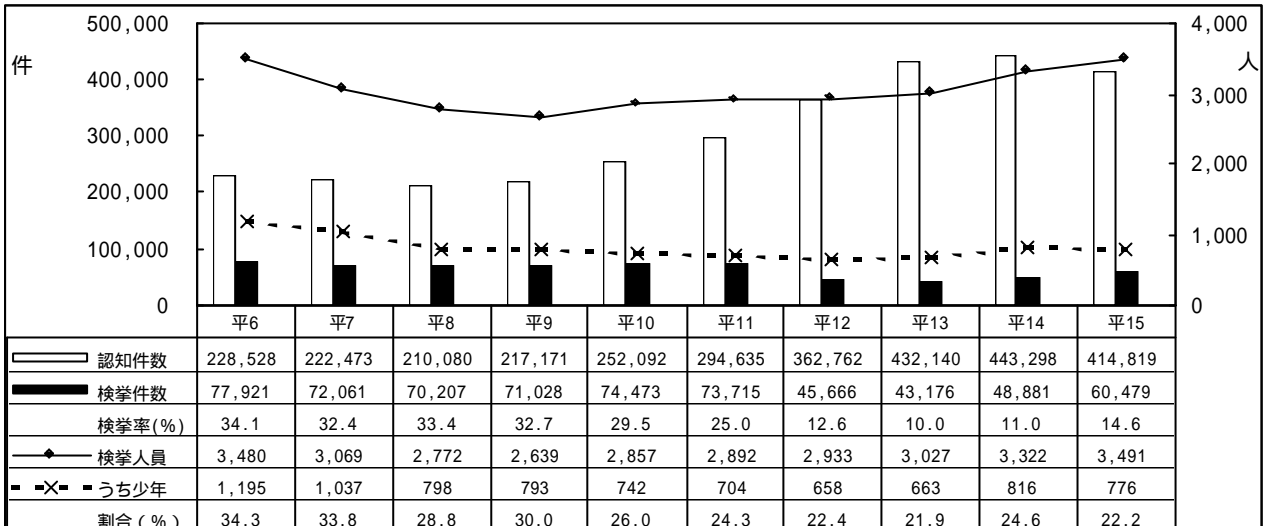
(6) 車上ねらい

平成9年から増加を続けていた車上ねらいの認知件数は、減少に転じ、平成15年の認知件数は41万4,819件で、前年に比べ2万8,479件(6.4%)減少している。

また、平成12年、平成13年と減少していた検挙件数は、平成14年に増加に転じ、平成15年は6万479件で、前年に比べ1万1,598件(23.7%)増加している。検挙人員は3,491人で、前年に比べ169人(5.1%)増加している(図表2-1-(6)-1)。

平成15年に認知した事件について見ると、発生場所は駐車(輪)場が最も多く、発生時間帯は平成6年には午後6時から午後8時までが最も多かったのが、平成15年には午前2時から午前4時までが最も多くなっている(図表2-1-(6)-2、3)。

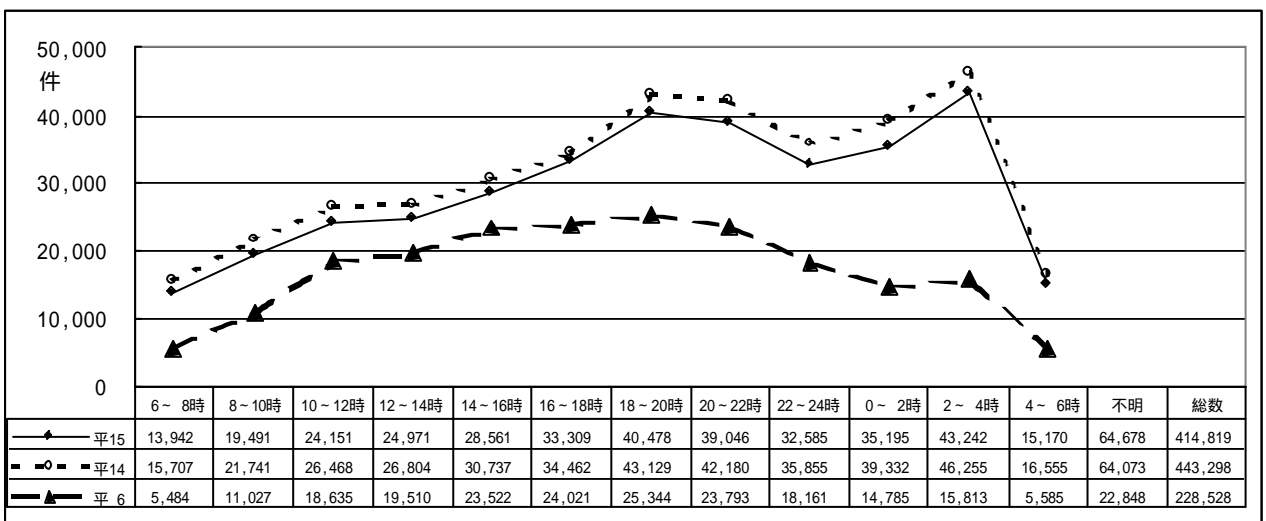
図表 2 - 1 - (6) - 1 車上ねらいの認知・検挙状況の推移



図表 2 - 1 - (6) - 2 車上ねらいの発生場所別認知件数

	平15		平14		増減	
	認知件数	割合(%)	認知件数	割合(%)	件数	率(%)
総数	414,819	100.0	443,298	100.0	-28,479	-6.4
街頭	347,596	83.8	370,209	83.5	-22,613	-6.1
道路上	67,352	16.2	72,907	16.4	-5,555	-7.6
駐車(輪)場	274,029	66.1	290,569	65.5	-16,540	-5.7
都市公園	1,433	0.3	1,449	0.3	-16	-1.1
空き地	4,782	1.2	5,284	1.2	-502	-9.5
その他	67,223	16.2	73,089	16.5	-5,866	-8.0

図表 2 - 1 - (6) - 3 車上ねらいの発生時間帯別認知件数の状況



車上ねらいに対する主な施策 ~ 13ページ参照

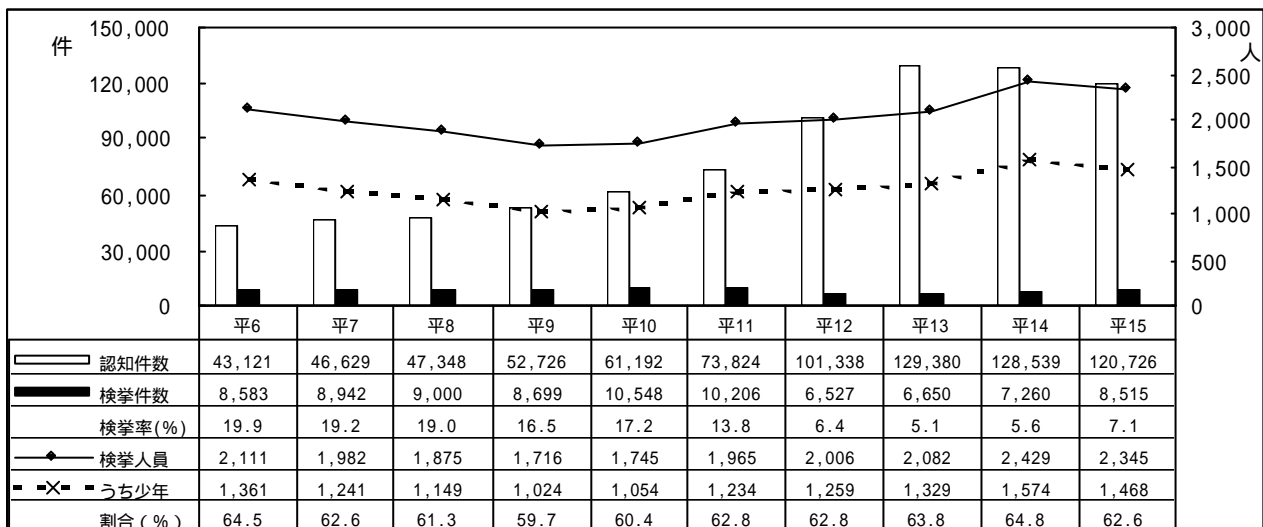
(7) 部品盗

部品盗の認知件数は、平成12年、平成13年に急増したが、平成14年にはわずかながら減少した。平成15年の認知件数は12万726件で、前年に比べ7,813件（6.1%）減少している。

検挙件数は8,515件、検挙人員は2,345人で、前年に比べ、検挙件数が1,255件（17.3%）増加し、検挙人員は84人（3.5%）減少している（図表2-1-(7)-1）。

平成15年に認知した事件について見ると、発生場所は駐車(輪)場、発生時間帯は午前2時から午前4時までが最も多く、ここ10年間の増加もこの時間帯の増加によるところが大きい（図表2-1-(7)-2、3）。

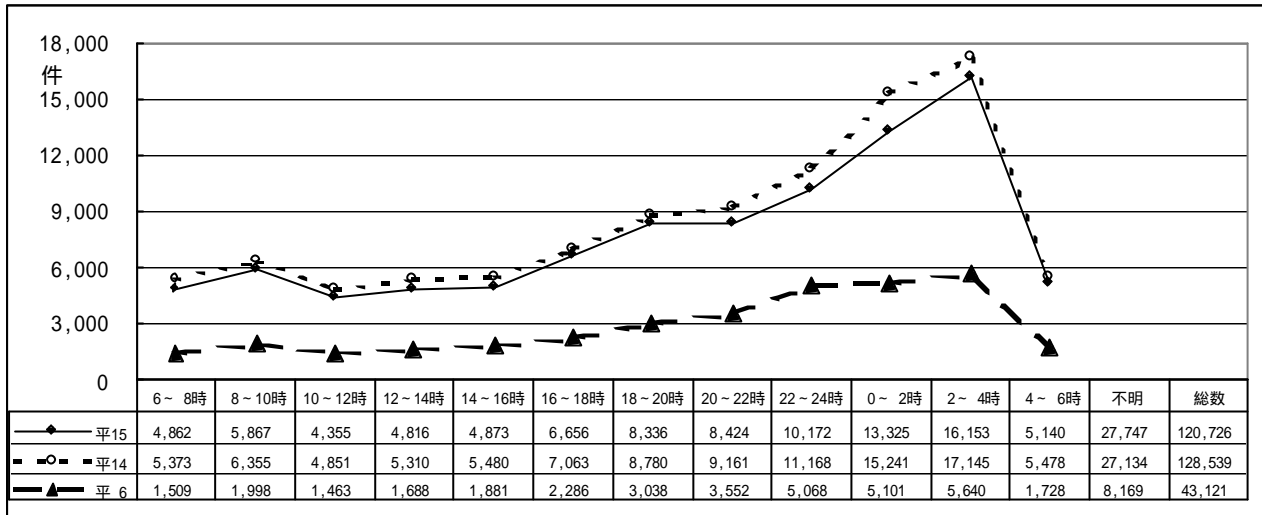
図表2-1-(7)-1 部品盗の認知・検挙状況の推移



図表2-1-(7)-2 部品盗の発生場所別認知件数

	平15		平14		増減	
	認知件数	割合(%)	認知件数	割合(%)	件数	率(%)
総数	120,726	100.0	128,539	100.0	-7,813	-6.1
街頭	98,444	81.5	103,444	80.5	-5,000	-4.8
道路上	11,133	9.2	12,784	9.9	-1,651	-12.9
駐車(輪)場	85,649	70.9	88,867	69.1	-3,218	-3.6
都市公園	107	0.1	127	0.1	-20	-15.7
空き地	1,555	1.3	1,666	1.3	-111	-6.7
その他	22,282	18.5	25,095	19.5	-2,813	-11.2

図表 2 - 1 - (7) - 3 部品盗の発生時間帯別認知件数の状況



部品盗に対する主な施策 ～ 13ページ参照

(8) 自動販売機荒し

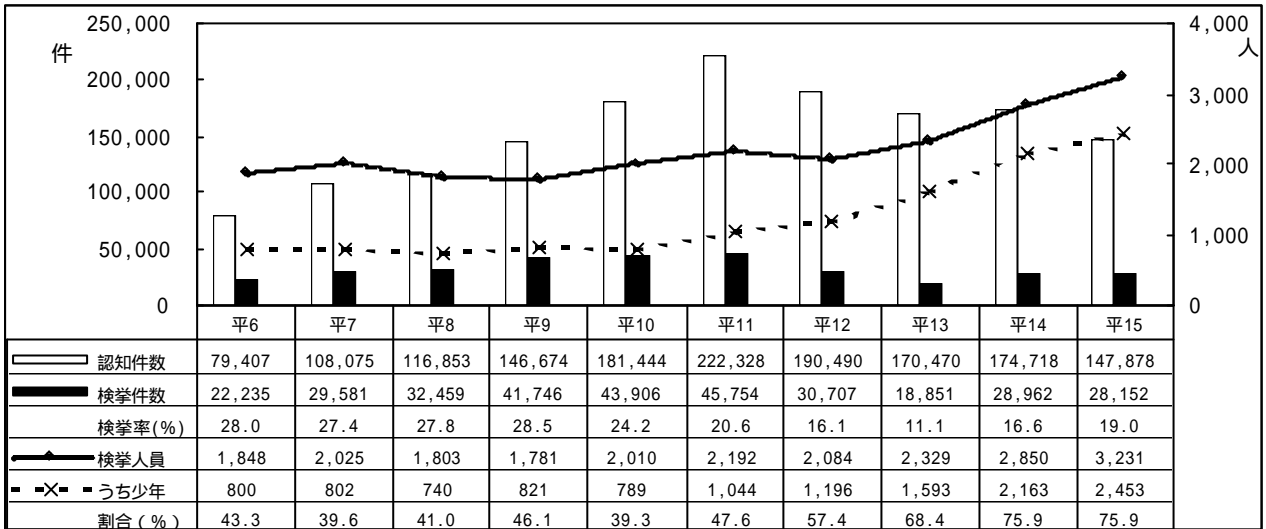
ここ10年間の自動販売機荒しの認知件数は、平成11年をピークに減少傾向にあり、平成15年の認知件数は14万7,878件で、前年に比べ2万6,840件(15.4%)減少している。

検挙件数は、平成14年に増加に転じたものの、平成15年は2万8,152件で、前年に比べ810件(2.8%)減少している。検挙人員は3,231人で、前年に比べ381人(13.4%)増加している。

また、自動販売機荒しの検挙人員に占める少年の割合は、平成12年あたりから高くなっており、平成15年は75.9%となっている(図表2-1-(8)-1)。

平成15年に認知した事件について見ると、発生場所は街頭及び商店(店先を含む。)が56.4%を占めている。また、発生時間帯は午前2時から午前4時までが最も多い(図表2-1-(8)-2、3)。

図表 2 - 1 - (8) - 1 自動販売機荒しの認知・検挙状況の推移

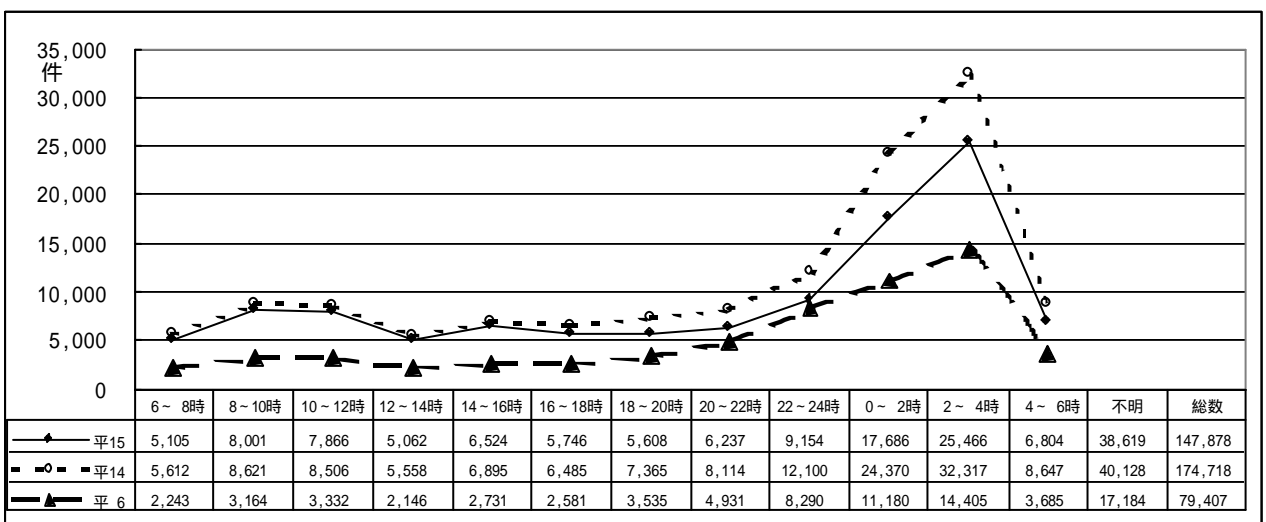


図表 2 - 1 - (8) - 2 自動販売機荒しの発生場所別認知件数

	平15		平14		増減	
	認知件数	割合(%)	認知件数	割合(%)	件数	率(%)
総数	147,878	100.0	174,718	100.0	-26,840	-15.4
街頭	44,283	29.9	44,787	25.6	-504	-1.1
道路上	20,898	14.1	17,171	9.8	3,727	21.7
駐車(輪)場	17,384	11.8	20,463	11.7	-3,079	-15.0
都市公園	1,015	0.7	988	0.6	27	2.7
空き地	4,986	3.4	6,165	3.5	-1,179	-19.1
商店	39,049	26.4	55,046	31.5	-15,997	-29.1
会社・事務所	21,300	14.4	24,640	14.1	-3,340	-13.6
その他	43,246	29.2	50,245	28.8	-6,999	-13.9

注：「商店」の詳細については、巻末の資料を参照。

図表 2 - 1 - (8) - 3 自動販売機荒しの発生時間帯別認知件数の状況



自動販売機荒しに対する主な施策

《施策 1》自動販売機の設置・管理業者における防犯対策の促進

自動販売機の設置・管理業者に対し、自動販売機の堅牢化、警報機の設置等の自主防犯対策を講じるよう働き掛ける。

《施策 2》自動販売機の設置・管理業者等との協力による検挙対策の促進

自動販売機に警報機等を設置することにより、現行犯的に被疑者を検挙する。

《施策 3》特別検挙隊等の編成による検挙活動の強化

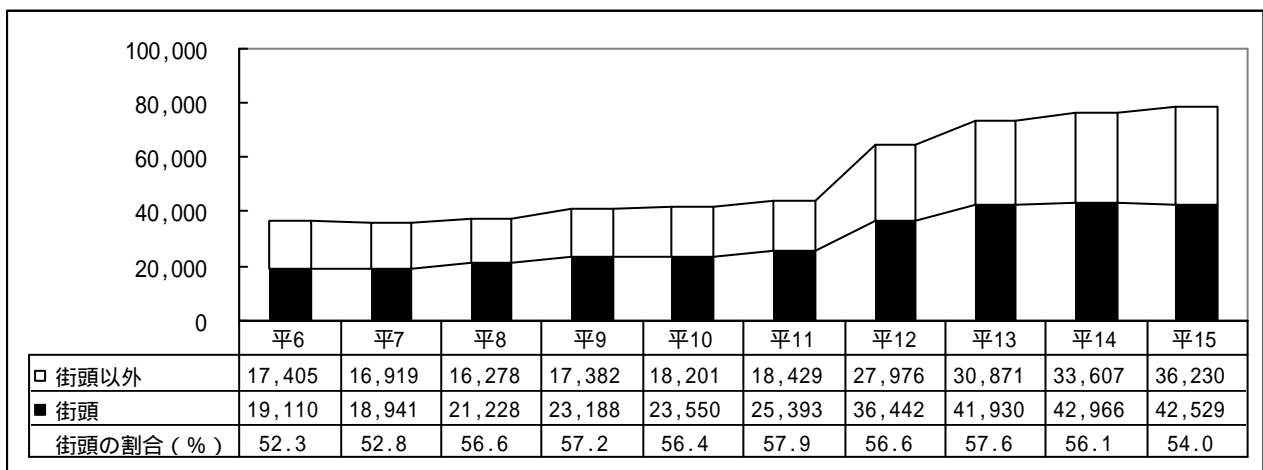
犯罪発生実態を分析した上で、犯罪多発地域に私服警察官等を投入し、積極的な職務質問、よう撃捜査を推進する。

(9) 街頭における粗暴犯

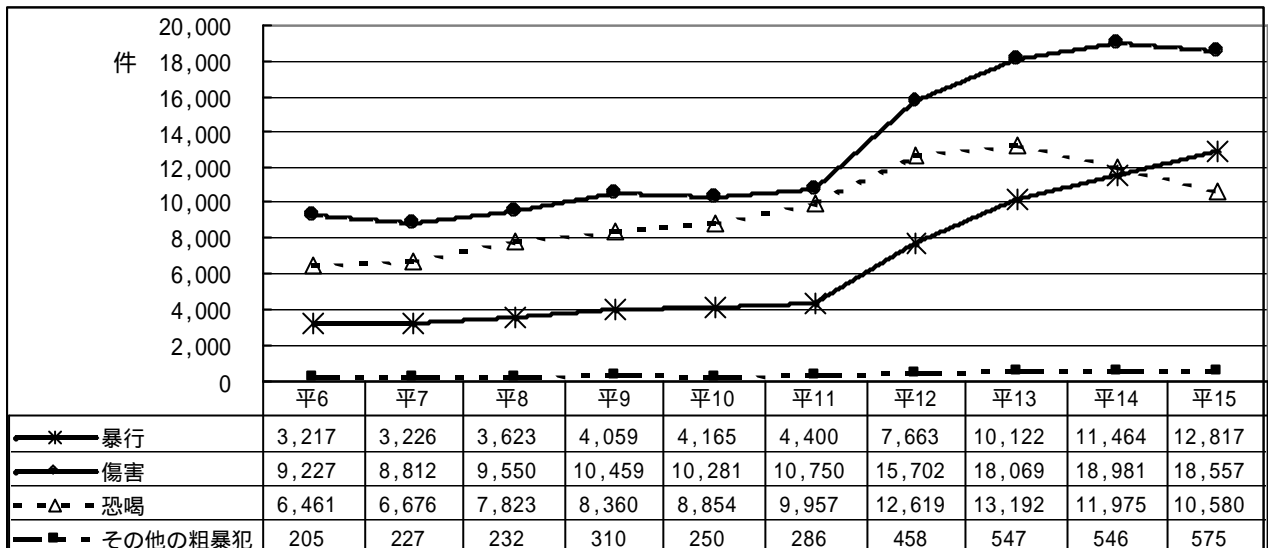
街頭における粗暴犯は、粗暴犯全体の5割以上を占め、その件数は増加傾向にある(図表2-1-(9)-1)。特に平成12年以降の暴行及び傷害の増加が著しい。平成15年の街頭における粗暴犯の認知件数は4万2,529件で、前年に比べ、暴行が1,353件(11.8%)増加し、傷害が424件(2.2%)、恐喝が1,395件(11.6%)それぞれ減少している(図表2-1-(9)-2)。

街頭における粗暴犯の発生場所は道路上が最も多く、被害者は未成年の男性が最も多い(図表2-1-(9)-3、4)。

図表 2 - 1 - (9) - 1 粗暴犯(うち街頭)の認知件数の推移



図表 2 - 1 - (9) - 2 街頭における粗暴犯の罪種別認知件数の推移



図表 2 - 1 - (9) - 3 粗暴犯の発生場所別認知件数

	平15		平14		増減	
	認知件数	割合(%)	認知件数	割合(%)	件数	率(%)
総数	78,759	100.0	76,573	100.0	2,186	2.9
街頭	42,529	54.0	42,966	56.1	-437	-1.0
道路上	32,813	41.7	33,250	43.4	-437	-1.3
駐車(輪)場	7,051	9.0	6,882	9.0	169	2.5
都市公園	2,164	2.7	2,300	3.0	-136	-5.9
空き地	501	0.6	534	0.7	-33	-6.2
住宅	11,619	14.8	10,764	14.1	855	7.9
商店	3,942	5.0	3,785	4.9	157	4.1
生活環境営業	7,656	9.7	7,178	9.4	478	6.7
公共交通機関	3,570	4.5	3,179	4.2	391	12.3
その他	9,443	12.0	8,701	11.4	742	8.5

注：「商店」、「生活環境営業」、「公共交通機関」の詳細については、巻末の資料を参照。

図表 2 - 1 - (9) - 4 街頭における粗暴犯の被害者の年齢・性別認知件数の状況（平成15年）

	総数	未成年	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
認知件数	42,493	15,210	11,945	6,484	3,488	3,300	2,066
割合(%)	100.0	35.8	28.1	15.3	8.2	7.8	4.9
男性	32,758	11,359	9,022	5,023	2,870	2,794	1,690
割合(%)	77.1	26.7	21.2	11.8	6.8	6.6	4.0
女性	9,735	3,851	2,923	1,461	618	506	376
割合(%)	22.9	9.1	6.9	3.4	1.5	1.2	0.9

注：被害者が団体・法人のものを除く。

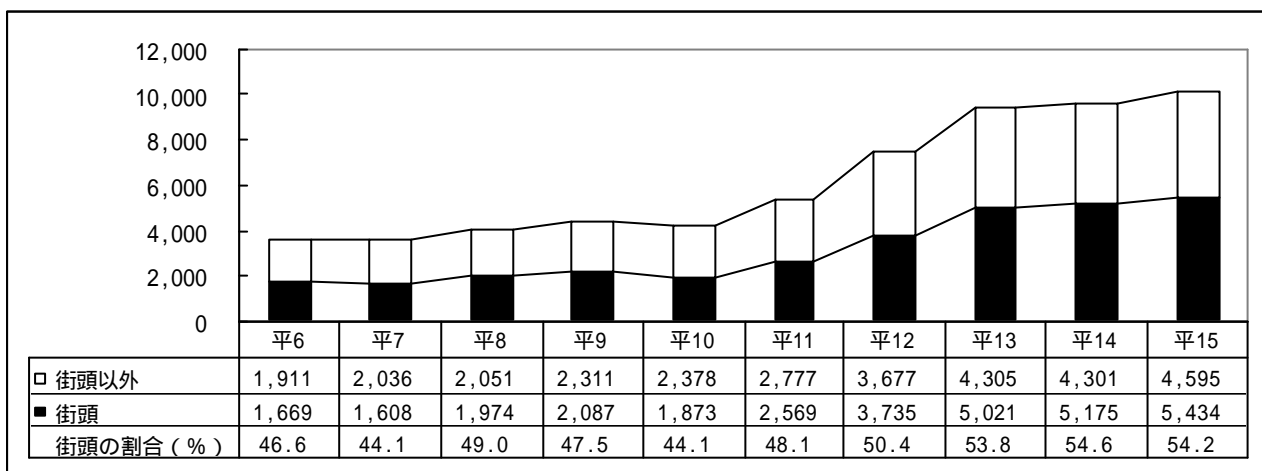
(10) 街頭における性犯罪

平成15年の街頭における強制わいせつの認知件数は5,434件で、前年に比べ259件（5.0%）増加しており、強制わいせつ全体の54.2%を占めている（図表2-1-(10)-1）。

街頭における強制わいせつの発生場所は最も道路上が多く、被害者は未成年の女性が最も多い（図表2-1-(10)-2、3）。

平成15年の屋外強姦の認知件数は935件、検挙件数は519件、検挙人員は358人で、前年に比べ、認知件数は1件（0.1%）、検挙件数は19件（3.8%）それぞれ増加し、検挙人員は7人（1.9%）減少した（図表2-1-(10)-4）。屋外強姦の被害者も未成年者が最も多い（図表2-1-(10)-5）。

図表2-1-(10)-1 強制わいせつ（うち街頭）の認知件数の推移



図表2-1-(10)-2 強制わいせつの発生場所別認知件数

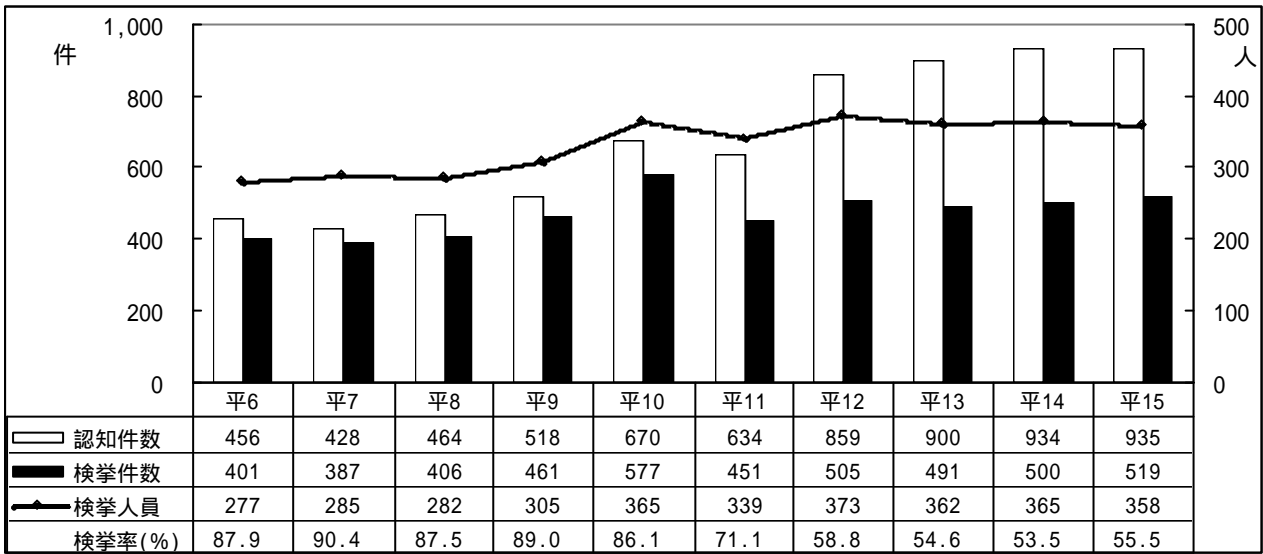
	平15		平14		増減	
	認知件数	割合(%)	認知件数	割合(%)	件数	率(%)
総数	10,029	100.0	9,476	100.0	553	5.8
街頭	5,434	54.2	5,175	54.6	259	5.0
道路上	4,304	42.9	4,102	43.3	202	4.9
駐車(輪)場	718	7.2	670	7.1	48	7.2
都市公園	300	3.0	260	2.7	40	15.4
空き地	112	1.1	143	1.5	-31	-21.7
住宅	2,421	24.1	2,234	23.6	187	8.4
公共交通機関	686	6.8	712	7.5	-26	-3.7
その他	1,488	14.8	1,355	14.3	133	9.8

注：「公共交通機関」の詳細については、巻末の資料を参照。

図表 2 - 1 - (10) - 3 街頭における強制わいせつの被害者の年齢・性別認知件数の状況（平成15年）

	総数	未成年	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
認知件数	5,434	3,466	1,537	340	65	17	9
割合(%)	100.0	63.8	28.3	6.3	1.2	0.3	0.2
男性	129	115	13	1	0	0	0
割合(%)	2.4	2.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
女性	5,305	3,351	1,524	339	65	17	9
割合(%)	97.6	61.7	28.0	6.2	1.2	0.3	0.2

図表 2 - 1 - (10) - 4 屋外強姦の認知・検挙状況の推移



図表 2 - 1 - (10) - 5 屋外強姦の被害者の年齢別認知件数の状況（平成15年）

	総数	未成年	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
認知件数	935	517	345	49	14	7	3
割合(%)	100.0	55.3	36.9	5.2	1.5	0.7	0.3